

新編立川市史関連講演会

考古学と

自然科学で読み解く

先史時代の立川

令和4年
12月11日(日)

午後1時00分～4時15分
受付12時20分～・手話通訳あり

入場無料・事前申込制

- 定員:100名(先着順)
- 講演会のお申込みはお名前・電話番号を電話かメールにてご連絡ください(12月9日締切)

会場：女性総合センターアイムホール

立川市曙町2丁目36-2 JR立川駅より徒歩7分
※施設の専用駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

申し込み・お問い合わせ

主催：立川市産業文化スポーツ部市史編さん室

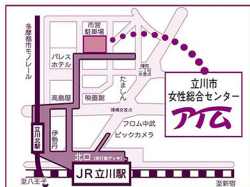
電話：042-506-0021

メール：chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

右記QRコードまたは下記のアドレスから立川市のホームページ内にある立川市史のページへ移動します



<https://www.city.tachikawa.lg.jp/chiikibunka/sisi/kouenkai.html>



基調講演 13:10～ 講師・谷口 康浩 立川市史編さん先史部会部会長／國學院大學文学部教授



立川市史編さん先史部会では、柴崎町四丁目にある大和田遺跡と立川市域の古墳について調査し、今年3月に2冊の報告書を刊行しました。縄文土器に残る植物種実圧痕の分析と地中レーダー探査という、立川市ではこれまでにおこなわれたことのない自然科学的分析を実施し、大きな成果が得られています。今回の基調講演では、これらの調査から得られた成果の考古学的意義について紹介します。

第1部 講師・山本 華 同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター／株式会社パレオ・ラボ

13:30～ 土器の種実圧痕からわかる縄文時代の植物利用



土器の表面や断面を観察すると、しばしば「くぼみ」=圧痕が見つかります。圧痕は、土器作りの過程で土器胎土内に入り込んだ植物のタネなどの有機物の痕跡です。圧痕をシリコンで型取りするレプリカ法を用いて、圧痕のもととなった種実を復元し、縄文時代中期の立川市域における植物資源の様相をさぐったところ、マメ類やシソ属などの有用な植物の存在がみえてきました。立川市域に暮らしていた縄文時代の人々は、これらの植物を食用などに利用していたのかもしれませんが。

第2部 講師・青木 敬 立川市史編さん先史部会副部会長／國學院大學文学部教授

14:50～ 立川市の古墳—考古学と物理探査から探る—



立川市には古墳が存在するとされてきましたが、古墳とする証拠が十分でなく、その実態は謎のままです。そこで立川市史編さんにともない、先史部会では立川市に古墳が所在するのをおきらかにするため、候補となる塚の測量調査ならびに地中レーダー探査による非破壊調査を実施しました。調査の結果、このうちの数基は古墳とみて差し支えない所見を得ました。今回は古墳にかんする調査成果を紹介し、あわせて立川市域に古墳が所在する意義について考えてみます。

■新型コロナウイルス感染症対策に関するお願い

- ・ご来場の際はマスクの着用をお願いします
- ・当日はご自宅かご来場時の検温にご協力ください
- ・発熱、咳、咽頭痛等の症状がある方は入場できません
- ・石鹸による手洗いや消毒液等による手指の消毒を行ってください

■立川市史刊行物の販売

新編立川市史刊行物は講演会会場にて当日販売するほか、下記頒布場所でも好評発売中です。

【頒布場所】立川市役所本庁3階市政情報コーナー、立川市歴史民俗資料館、オリオン書房ノルテ店、ジュンク堂書店立川高島屋店

資料編	古代・中世	頒布価格2,500円
	近世1	頒布価格2,500円
	近代2	頒布価格2,500円
	現代1	頒布価格2,500円
	柴崎の民俗	頒布価格2,500円
	地図・絵図	頒布価格3,000円

調査報告書	先史編1	向郷遺跡 竹内勇貴氏寄贈資料調査報告書	頒布価格1,000円
	先史編2	東京都立川市 大和田遺跡 第1・3・4地点発掘調査資料再整理報告書	頒布価格900円
	先史編3	立川市域の古墳時代	頒布価格600円
	近世編1	鈴木家文書目録	頒布価格1,000円
	民俗・地誌編1	砂川青年団資料集	頒布価格1,500円
	民俗・地誌編2	柴崎の口承文芸	頒布価格600円